

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	29	施策名	都市間交流の促進	
小施策コード	29-2	小施策名	地域間連携の推進	
小施策 主管課等コード	123000	小施策 主管課等名	企画調整課	
評価責任者名	小川 秀樹		内線番号	3810
評価シート作成者名	藤澤 法輝		内線番号	3811

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
都市間交流を促進するための 協定等の締結数	↑	件	4	4	4	4	5
みちのく盛岡広域連携都市圏 ビジョン事業数*	↑	件	—	47	47	47	64

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

* 28年度に「にぎわいや産業振興につながる自治体連携の取組数」から「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数」に変更している。

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

対象 (誰 (何) を対象として行うのか)	意図 (対象をどのようにしたいのか)
市民	市民の生活文化の質が向上する
連携市町村	都市間の連携した取組が活発になる
連携事業に関連する事業者	まちのにぎわいの向上につながる取組がなされる
現状と課題	<p>住民の日常生活圏や産業活動の広域化とともに、全国的に地域間競争が激しくなっていることから、日常生活圏を共通する盛岡広域圏や歴史・経済的に関係の深い沿岸地域などとの連携を深めることによって、競争力のある産業の振興や生活の質の向上を図り、より住みよい地域を構築していく必要がある。</p> <p>また、沿岸地域は東日本大震災からの復興が課題となっていることから、復興に向けて連携した取組を進める必要がある。</p>
取組の方向性	日常生活圏を共有する盛岡広域圏の一体的な発展とともに、歴史・経済的な関係の深い沿岸被災地の復興に向けて、関係自治体との連携を図る。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数	↑	件	—	47	47	47	64

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 4 市民ニーズの把握

盛岡市まちづくり評価アンケート結果によると、「都市間の交流が盛んになり，まちのにぎわいを生む取組み」については，11.4%の市民が満足している一方で，53.0%の市民が「今後の取組が重要」であるとしている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の役割の状況	市	盛岡広域圏における経済成長のけん引や高次都市機能の強化，生活関連機能サービスの向上などに資する諸施策の展開について，盛岡市が中心的な役割を担うこととしている。	50
	国・県・他自治体	盛岡広域首长懇談会における，広域圏の一体的な発展へ向けた諸施策の展開について，意識を共有しながら，事業の共同実施を進めてもらう必要がある。	35
	市民・NPO		
	企業・その他	特に，経済成長のけん引に資する具体の連携事業を実施するに当たり，共同で取組んでもらう必要がある。	15

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

盛岡広域市町圏における広域連携については，市が中心的な役割を担うこととしているが，他自治体との連携を深め，共通の課題認識のもと，競争力のある産業の振興や生活の質の向上を図り，より住みよい地域を構築していく必要があるため，現状維持とするもの。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

圏域の市町との連携を強化するとともに、「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に掲げる事業を推進するための予算を確保し、実施することにより、圏域の課題を克服し、圏域に新たな価値や魅力を生み出す。

2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
圏域の課題を克服し、圏域に新たな価値や魅力を生み出す。	「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に掲げる事業を推進するための予算を確保し、実施する。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に掲げる新規・拡充事業を推進するに当たり、広域市町間において、事業実施決定のプロセスや予算編成の調整を行うなど事業化に向けたルール作りを確立することができた。

(2) 成果をあげた要因

年度当初から広域市町間での検討・協議を密に進めるなど、各市町の意向を把握しながらルール作りに向けた調整をすることができたため。

(3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

事業化に向けたルール作りは確立されたものの、事業化に向けて、事業内容の検討のほか、各市町における事業費の負担割合の調整など、市の単独事業よりも事業スキーム確立までに時間を要する。

(2) 現状の問題点が生じている原因

事業実施における財源の確保や各市町の財政事情が異なるため。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

事業化に向けて財源を確保するほか、事業実施に係る交付税がより多く措置されるよう、事業効果が広域に及ぶための事業スキームを検討する必要がある。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

圏域の市町との連携を強化するとともに、「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に掲げる事業を推進するための財源を確保するほか、事業実施に係る交付税がより多く措置されるよう、事業効果が広域に及ぶための事業スキームを検討する必要がある。